

にせえ。米の飯が項邊へ昇たとは貴様の事ぢやわツ」
後ろで聽てる番頭の辛い事。

「ウツヘー。ウツヘー。……」

「何ぢや〜。誰ぢやいな其處でベコ〜お叩頭をしてなさるのは。……オ、お前は次兵衛どんぢや無いかい。アツハハハ。そりや何をするのぢや。さ。此邊へ遣入とくなされ。いや〜夫れでは話が出来ん。ズツと此處へ来て火鉢に當つとくれ。さア〜座蒲團を敷いとくなされ。俺しも此通り御免を蒙て敷かして貰ふてますぢや。いんや敷いて貰はふと思やこそ出す蒲團やもん、何遠慮が要る物かいな。遠慮はなア番頭どん……他所でする物や」

「ウツヘー。……」

「そ。其ふ一々頭を下げたら、話も何も出来やせんがな。ヤ併し毎日御苦勞さん。中々容易ぢや無からふ。今も子供に小言を云ふてた處ぢやが、不慾を掛けて優しふして遣ると増長しよるぢやろし、其手加減なり指揮萬端。いやもう一通りの事では有るまいと察しますぢや。貴方の骨折りが顯れて、あ大きな大福帳が毎年一冊宛汚れて往く。私しや喜んで居るのやで。……さアお茶が煎つた、一杯飲みなされ、今は何かいナ豪ふ急く用事は有りやせんか、フム、そんならまア暫く相手になつて貰ふが一軒の家の主を、旦那々と昔から云ふなア。あれは何ふ云ふ譯で左様云ふか知てるか。……何、知

らん。ウム無理は無い。此齡に成る私が知らなんだのぢや。人さんから教えて貰ふたんやで、間違ふても笑ふとくれなや、天竺も五天竺あると云ふな。此内の南天竺に赤栴檀と云ふ大木が有る相な。處で此赤栴檀の根元に南縁草と云ふ草が生える。宣えかナ、人が見てア、折角の名木の根元に、穢い草が生えたちウので是れを抜いて仕舞ふと不思議な事には栴檀の木が段々と枯れかゝつて来る。種々と考えて見ると是れは枯れるのが當然ぢや。次から次へと殖えては腐て往く南縁草の根が、栴檀にとつては此上も無い肥料に成る、ぢやに依て、南縁草が榮えれば繁える程栴檀も榮えて往くと云ふ道理。すると此栴檀の繋り榮えた枝々から露を降ろすのやが、是れが又南縁草にして見ると、何よりも良い肥料に成て益々榮えて往く、それに連れて栴檀も又榮えて次第に餘計の露を降ろすと云ふ、つまり是れ双五扶助ぢや。佳え咄やなア。其處で栴檀のだんと、南縁草のなんとを取て、だんなんとマア云ふのや相な。アハハハ耳學問ぢや。本真かどふや知らんで……。マ其處でやなア。是れを此家で假えて云ふなれば、鳥鳴がましいが俺しが赤栴檀で、貴方が南縁草や。有難い事には良え南縁草が生えて呉れたお蔭で、此栴檀は見なさる通りエラ繁えぢや。で及ばず乍ら出来る丈けの露は降ろさじや成らぬと思ふてる。……處が店へ出ると、今度は貴方が赤栴檀で他の若い者一同が皆あれ南縁草ぢや……時に私が此頃様子を見るのに、店の赤栴檀は豪い精力で榮えてるが、南縁草の方は少ふしグニヤツとしてやへんか。いや是れは多分私の見損ひぢやろ。見損ひぢやろと思ふが、若しも左様な事が有る